

2019年1月13日(日)／説教者：國分美生

説教：「働くとき、聴くとき」

聖書：ルカによる福音書10:38～42

マルタとマリアの姉妹は、キリストに仕える女性信徒の姿を具体的にあらわすものとして、古くから教会の中でよく知られてきました。マルタは家の主人なので、もてなしのために忙しく立ち働きます。一方マリアは、イエスの言葉を聞き逃すまいとその足元に座り込みます。マルタに対し教会は不名誉な評価を与えてきました。あのマルティン・ルター曰く、「マリアの行いの方が信仰的で価値のあることであって、マルタのしたことは無に等しく、罰せられるべきだ」。神はただ恩寵によって私たちが義とするのであって、行為によって恵みが与えられるわけでない、というのがその根拠のようです。

ですがイエスはここでマルタに対して、マリアのように心静かにみことばに聞くことこそ正しいのだからあなたもそうしなさい、などとは言いません。その他いくつかのポイントを注視したいと思います。

まず一つは、この物語が「善きサマリア人の譬え」の後に置かれているという点。その中でイエスは具体的に行動することを律法の専門家に促していますので、ここでマルタに対して「行動することより謙虚にみことばを聞く方が大事」と言っているのだとしたら、なんだか矛盾しています。

二つ目に、もともとのギリシア語聖書では、「私の姉妹はわたしだけにもてなしをさせている」とのマルタの言葉は「私を放っておいて、わたしだけにもてなしの仕事をさせている」という意味です。自分だけが置いて行かれている焦り・不安なマルタの思いを想像できます。同じように「マリアは良い方を選んだ」(42 節)は「マリアはその良い分け前を選び取った」と訳せます。つまり、マリアはまさに今自分にとって良い方、差し出された自分の取り分を決断して選び取った。そう読むこともできます。

マルタが心を煩わされていたのは接待の準備そのものではなく、自分の今のこの働きが正しいかどうか、劣ったものではないだろうか…という、自分自身を躓かせる思い患いだったのではないか。それをイエスは憐れんでくださっているようにみえてなりません。イエスのマルタへのまなざしから、人と比べることなく安心してあなたに備えられた奉仕を心から捧げなさい、と励まされます。そしてまた、マリアへのまなざしから、私たちが決断して選び取ったそれぞれの奉仕は、どんな力によっても取り去ることのできないものであると励まされます。(國分美生)